

スポーツ庁委託事業

令和3年度 大学のスポーツ資源を活用した地域活性化拠点形成・大学スポーツアドミニ  
ストレーター配置支援事業

「“地域の成長エンジン”としての大学スポーツ資源を  
活用した「知・徳・体」一体の地域共創拠点化事業」

成果報告書

徳山大学

## I. 事業実施の背景

本事業は、スポーツ庁が「我が国の大学スポーツの持つ潜在力（人材輩出、経済活性化、地域貢献等）を活かして、地域における経済・社会の活性化、スポーツを通じた健康増進、スポーツのための環境整備等に貢献するとともに、それらの取組を収益事業化・自走化することで大学の財政基盤の安定化を図ることを目的に、各大学におけるスポーツ分野を一体的に統括する部局の設置や専門人材の育成、先進的モデル事業の展開、大学が主体となって地域との連携を促進するためのコンソーシアムの形成等、大学スポーツの活性化に全学的に取り組む各大学を対象に、必要な支援を行う」ことを趣旨として、令和元年度から全国の大学に対し公募、選定を行い、単年度の支援を行っている事業である。

これを受け、徳山大学（以下、本学）では令和3年度の公募に対し、「“地域の成長エンジン”としての大学スポーツ資源を活用した「知・徳・体」一体の地域共創拠点化事業」と題した企画提案を行い、採択された（図1参照）。令和3年度に採択された大学は全国8大学（新規採択は2大学）であった。

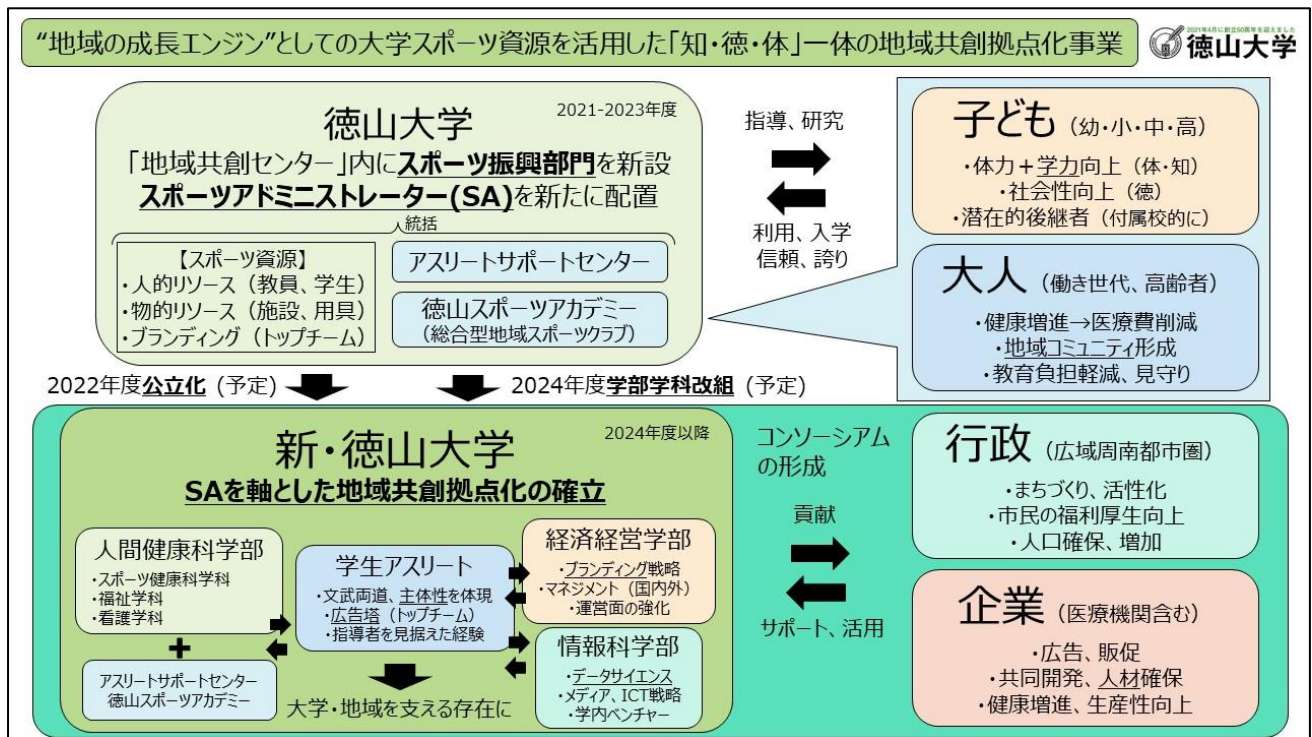


図1. 事業概要図

## II. 具体的事業内容とその成果

### II-1. 地域共創センター・スポーツ振興部門の設置

事業の採択を受け、事業計画に従い、「本学の教育ならびに研究を通じた社会貢献を地域の産業界、行政、教育機関と一体となって連携する際の窓口」としてすでに設置されていた「地域共創センター」の附属機関として、それまで学内の各スポーツ関連部局（各学部、総務課、学生支援課、各運動部、等）に分かれて行われていた運動部の統括や学生アスリートの管理、スポーツ施設の運営管理、スポーツを通じた大学ブランド力の向上などの業務を統合し、学外との地域共創事業運営と併せて一体的に統括する組織・運営体制を構築すべく、「地域共創センター・スポーツ振興部門」を設置した。

## II-2. 専属職員としての大学スポーツアドミニストレーター（SA）の配置

地域共創センター・スポーツ振興部門専属の委託契約職員として、SA 1 名を雇用した（契約期間：2021年8月1日～2022年3月18日）。SA が担う業務は以下の通りとした。

- (1) 学内の運動部の統括や学生アスリートの管理、スポーツ施設・設備・用具の運営管理、スポーツを通じた大学ブランド力の向上など、学内のスポーツ分野を一体的・一元的に統括する業務
- (2) 大学スポーツの事業開拓およびブランド力の向上等に関する企画・立案、ならびに学内外の関係者との調整等、大学スポーツを円滑に推進する業務
- (3) 周辺自治体、地域スポーツコミッション、総合型地域スポーツクラブ、学校、民間企業および観光協会等と連携するためのコンソーシアムを形成し、地域の活性化に資する取り組み等の企画立案・実証事業の実施、およびこれらの取り組みの収益化・自走化に向けた取り組みを中心的に推進する業務
- (4) その他、大学並びに本学体育・スポーツ担当教員からの要請事項への協力業務

## II-3. 大学のスポーツ資源を活用したコンソーシアムの形成状況及び事業の実施

### (1) 「アスリートサポートセンター」の設置

大学が有するスポーツ資源を地域に還元し、地域とともに発展させていく実証事業として、6月末に学園台キャンパス・8号館内に「アスリートサポートセンター」を設置した（図2参照）。

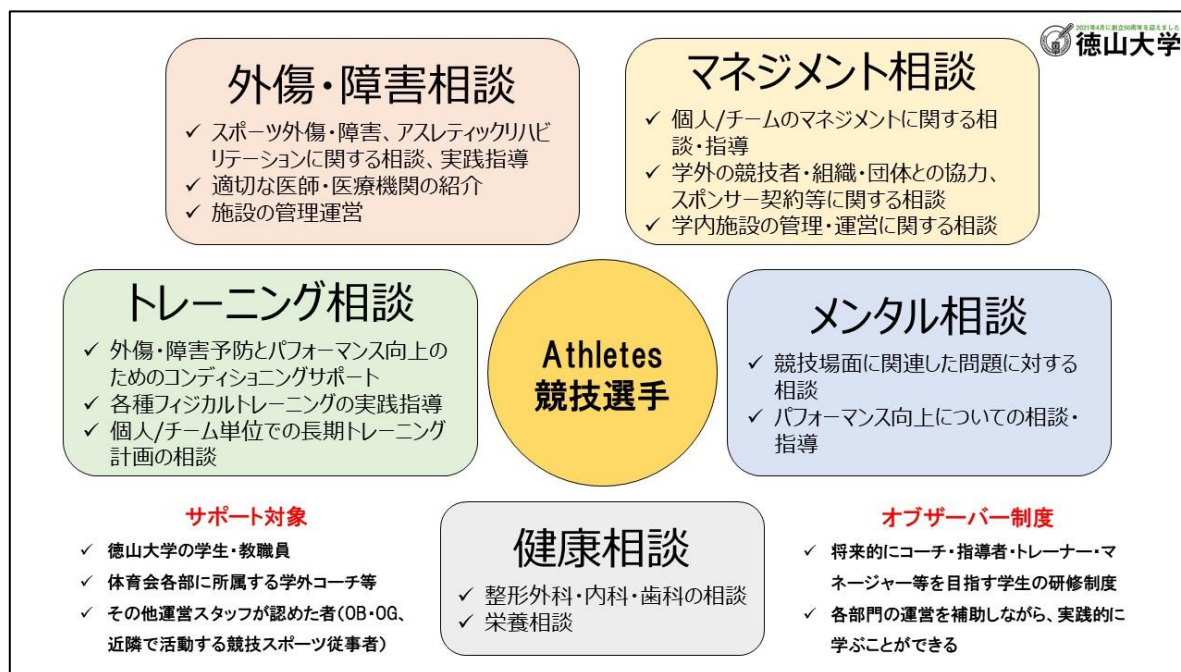


図2. アスリートサポートセンター概要図

- ・リコンディショニング部門（アスレチックリハビリテーション・トレーニング）、コンディショニング部門（ストレングス&コンディショニング）、メンタル部門、マネジメント部門を開設し、本学の専任教員が運営の中心を担い、まずは学内のアスリートのみを対象に競技力向上や傷害予防、組織運営の強化のためのサポートを開始。

- ・受付時間は、授業期間中の平日夕方 16:30～19:30（担当教員が授業や会議等の場合を除く）、長期休業期間中の 15:00～18:00。利用希望者はホームページからオンラインで事前予約を行う（図 3 参照）。



図 3. アスリートサポートセンターのホームページ

- ・山口県歯科医師会の協力を受け、夏季休業期間中の 9 月に学内アスリート向けのスポーツ歯科講座を開催（88 名参加、図 4）。受講者のうち希望者に対して集団歯科検診（82 名参加）、マウスピース作製（15 名参加）を実施。マウスピース作製者には同時に咬合力や筋力、バランス能力などの測定を行い、結果を今後スポーツ医科学関連の学会等で発表予定。
- ・山口県体育協会スポーツ医科学委員会の協力により、後期授業期間開始からメディカル部門（整形外科）を開設。社会医療法人同仁会・周南記念病院の協力により、整形外科の医師に月 1 回、学内でスポーツ傷害に関する相談に応じて頂いている。
- ・同じく社会医療法人同仁会・周南記念病院の協力により、ニュートリション部門を開設。栄養科の栄養士に月 1 回、学生への栄養講習（図 5）や学生からの相談に応じて頂いている。
- ・山口県アスレティックトレーナー協議会の協力により、リコンディショニング部門の非常勤スタッフとして理学療法士の資格を有する方 2 名に協力を頂いている（2022 年 2 月より 1 名追加し、現在 3 名）。
- ・2022 年 2 月・3 月に学内アスリート向けのメディカルチェックを実施。結果をフィードバックするとともに、2022 年シーズンの傷害発生状況を調査する前向き研究の基礎データとする予定。
- ・現在は、メディカル部門（整形外科・歯科）・リコンディショニング部門・コンディショニング部門・メンタル部門・ニュートリション部門・マネジメント部門の計 6 部門で運営されている。
- ・当初の事業計画では、メディカル部門（整形外科・歯科）やニュートリション部門は 2022 年度以降の設置を目指していたが、前倒しで実現できたことは大きな成果であった。





図4. スポーツ歯科講座の様子 (2021年9月、協力：山口県歯科医師会)



図5. スポーツ栄養講座の様子 (2021年11月、協力：周南記念病院・栄養科)

(2) 周南市教育委員会が担うスポーツ庁公募事業「令和3年度 地域運動部活動推進事業」への協力

6月初旬に周南市教育委員会から同委員会が進める「やまぐち部活動改革推進事業」の説明を受け、市内中学校の部活動を地域に移行していく取り組みの中で、本学がその受け皿（場所）や担い手（指導者）となる可能性について検討を開始した。当部門の取り組みの1つとして、世代や地域、競技種目や障がいの有無にとらわれず、誰もがスポーツを楽しむとともに教養を身に付けられる場として「スポーツ&アカデミックカレッジ」を設立する計画があることを説明し、周南市教育委員会と本学、さらに周南市体育協会などとも協力して体制を構築していくことを確認した。

令和5年度から週末の部活動を地域に移行することを目指し、令和4年度からモデル校（秋月中学校）を対象とする試験的な取り組みを行うべく、協議を継続している。イメージとしては「スポーツ&アカデミックカレッジ」が運営母体となり、本学のスポーツ施設を開放して、本学の教職員や学生、周南市体育協会が持つ指導者バンクに登録している指導者などが協力して部活動に置き換わる環境を提供することを検討している。

試験的な取り組みとして、12月に山口県東部の中体連所属チームで活動する中学生女子サッカー選手を本学に集めて合同サッカー学校を実施するとともに、周南市に拠点を置く(株)トクヤマと本学ゲーム同好会との合同企画としてサッカー学校に参加した子どもたちにeスポーツを体験してもらう取り組みを行った。当日は別途開催されていた本学ラグビー部主催の子どもラグビー教室（小学生対象）に参加していた子どもたちもeスポーツ体験に合流し、付き添いの保護者も含めると計40名程の参加があった。

(3) 「しゅうなんスポーツフェスタ in 徳山大学」の開催

本学のスポーツブランドカアピールとコンソーシアム形成強化、地域活性化の契機となる、自治体・企業と連携したキックオフイベントとして、10月に「しゅうなんスポーツフェスタ in 徳山大学」を開催した。

当初の計画では、周南市が昨年まで開催していた「しゅうなんスポーツフェスタ」に本学が協力し、共催とする形で10月9日（土）・10日（日）に周南緑地公園（キリンビバレッジ周南総合スポーツセンター、津田恒美メモリアルスタジアム）および本学のスポーツ施設（学園台キャンパス、総合グラウンド、第2記念会館）にて開催する方向で6月末から周南市役所・文化スポーツ課、健康づくり推進課と協議を開始した。しかし、7月下旬頃から新型コロナウイルス感染症が再拡大し始め、山口県でも8月中旬頃には第5波のピークを迎えることとなり、フェスタへの参加者は事前申込制で人数を制限することを決めた。事前申込の開始を開催1か月前の9月中旬とした場合、それに先駆けて市広報誌で開催周知を行うには8月末までに開催概要を決定しなければならない状況に追い込まれた。最終的に、周南市役所・健康づくり推進課から企画の取下げ、文化スポーツ課から開催時間の短縮を提案され、本学としては当初の事業計画に従い、10月30日（土）・31日（日）に開催が予定されていた50周年記念式典および大学祭（ポプラ祭）の期間に延期する案を提案した。しかし、周南市としては新型コロナウイルス感染症の収束の見込みが立たないことから、10月9日（土）・10日（日）の開催を断念し、30日（土）・31日（日）への延期は行わない（本学との共催は行わない）ことを決定したため、本学が単独で主催し、大学施設のみを使用して「しゅうなんスポーツフェスタ in 徳山大学」として30日（土）・31日（日）に開催することを決定した。



開催概要は図6の通りであるが、後援として下松市、山口県体育協会、周南市体育協会、協賛としてミズノ(株)、(株)トクヤマ、大塚製薬(株)、トヨタカローラ山口(株)、協力として防府市、レノファ山口、ミネルバ宇部、山口県アスレティックトレーナー協議会、といった多くの行政、企業、団体が加わり、2日間約1,000名の一般市民の参加者に様々なスポーツ体験を提供することができた。幸い、懸念された新型コロナウイルス感染症についても8月中旬をピークに徐々に収束に向かい、スポーツフェスタ開催時には1日の県内の新規感染者数が一桁台まで落ち着いていた。

**10月30・31日は 徳山大学へ行こう!! しゅうなん in 徳山大学 スポーツフェスタ**

**30日タイムスケジュール**

- 11:00~12:00 50周年記念講演会 岡田武史様
- 13:00~14:30 レノファ山口サッカー教室
- 13:00~15:00 歩き方教室&ウォークラリー
- 13:00~14:30 オリピック〜チフォセッション
- 13:00~14:30 親子柔道教室
- 13:00~16:30 徳トクヤマ eスポーツ体験
- 13:00~16:30 ストラックアウト
- 13:00~16:30 テーピング体験&体力測定
- 13:00~16:30 キックターゲット
- 15:30~16:30 TUバスケアカデミー

**31日タイムスケジュール**

- 10:00~11:00 TUバスケアカデミー
- 10:00~11:30 走り方教室
- 10:00~11:30 レノファ山口サッカー教室
- 10:00~12:00 徳トクヤマ eスポーツ体験
- 10:00~12:00 オリピック〜チフォセッション
- 10:00~15:00 キックターゲット・ストラックアウト
- 10:00~15:00 ゴルフパターショット体験
- 11:30~12:30 TUバスケアカデミー
- 12:30~14:30 ボッチャ体験
- 12:30~14:30 走り方教室
- 13:00~14:30 レノファ山口サッカー教室
- 13:00~14:30 ゴルフ教室
- 13:00~15:00 歩き方教室&ウォークラリー
- 13:00~15:00 徳トクヤマ eスポーツ体験
- 13:30~15:00 ミネルバ宇部フットサル教室

**【事前予約制】感染症対策を万全に、お待ちしております!!**

- 参加者への検温・消毒・体温確認を実施します
- イベント2週間前からの不要不急の外出は控えましょう
- 運動時を限って、マスクの使用を義務付けます
- 飲食ブース以外での飲食を禁止します

**令和3年 10/30±31日** 受付 10:00~ 受付 9:30~

**徳山大学** (会場内は裏面にMAP)

お問い合わせ: 徳山大学 Tel.0834-28-0411(代表) Mail: tokuyama.sports@gmail.com

主催: 徳山大学 後援: 下松市・山口県体育協会・周南市体育協会 協賛: ミズノ(株)・(株)トクヤマ・大塚製薬(株)・トヨタカローラ山口(株) 協力: 防府市・レノファ山口・ミネルバ宇部・山口県アスレティックトレーナー協議会

図6. 「しゅうなんスポーツフェスタ in 徳山大学」案内チラシ

また、スポーツフェスタの企画段階から運営に至るまで、学内の学生団体(学生執行部、大学祭実行委員会、各運動部、等)の幹部が参画し、加えて開催本番時には100名以上の学生が運営スタッフとして協力してくれた。学生自身がスタッフとして運営に携わり、多くの市民と直に接し、子どもたちにスポーツの楽しさを伝える立場に立ったことで、徳山大学生としての誇りや自信、主体性や行動力などを養う大きなきっかけになったと考える。

今回のフェスタ開催に当たり、後援・協賛・協力の各自治体・企業・団体が本学とコラボレーションして実施した企画は以下の通りである。

▶ 下松市および防府市

2020 東京オリンピックのホストタウン事業の関係で、それぞれベトナムのバドミントンチームやセルビアのバレーボールチームをサポートしていたことから、本学ゲーム同好会が e スポーツ企画として実施したバドミントンやバレーボールのゲームを体験する企画に協力。

▶ 山口県体育協会

本学陸上競技部が実施した走り方教室にて、参加者の疾走速度を計測する光電管タイマーと操作する職員を派遣。

▶ 周南市体育協会

本学ゴルフ部が実施したパター&ショット体験にターゲットバードゴルフの用具を貸し出し。

本学軟式野球部が実施したストラックアウト体験に、的およびボールを貸し出し。

本学学生執行部が実施した歩き方教室&ウォークラリーおよび聖火リレートーチフォトセッションに記念撮影用のパネルを貸し出し、および職員を派遣。

▶ ミズノ(株)

参加者に配布した記念品のタオルの製作に協力。

▶ (株)トクヤマ

同社内の e モータースポーツクラブ (TKY) が本学のゲーム同好会とコラボレーションして e モータースポーツ教室の企画を実施。

同社内のレノファ山口応援団 (ぶち勝つ団) が応援グッズの竹クラーベづくり体験ブースを出店。

▶ 大塚製薬(株)

参加者に提供する景品としてスポーツ飲料および栄養補助食品を提供。

▶ トヨタカローラ山口(株)

本学ゴルフ部が実施したゴルフ教室に練習用ケージおよび用具を貸し出し。

メイン会場内の e モータースポーツ企画入り口付近にてモデル車を展示。

▶ レノファ山口 (サッカーJ2 リーグ所属) およびミネルバ宇部 (日本フットサルリーグ所属)

本学サッカー部とコラボレーションしてサッカーやフットサルの教室を開催

▶ 山口県アスレティックトレーナー協議会

本学アスリートサポートセンターとコラボレーションして体力測定&テーピング体験企画にメンバーを派遣。

参考資料として、スポーツフェスタ参加者に実施したアンケート調査の結果を別添する。

(4)「徳山大学 地域共創スポーツフォーラム」の開催

今年度の事業の総括と、今後の大学および地域におけるスポーツ資源の活用、地域活性化に向けた取り組みの方向性を市民とともに検討する機会として、2022 年 3 月 13 日(日)に周南市文化会館において「徳山大学 地域共創スポーツフォーラム」を開催した。



「しゅうなんスポーツフェスタ in 徳山大学」が終了した後、2021年11月から企画立案を開始した。当初の事業計画では2022年2月中旬に開催することを予定していたため、会場の空き状況等も考慮し、開催予定日を2022年2月20日(日)に決定した。その後、基調講演、パネルディスカッションの2部構成とすることを決定して登壇者の人選を開始したが、スケジュール調整に難航することとなり、それと並行して新型コロナウイルス感染症(オミクロン株)が拡大し始めた。結果的に山口県でもまん延防止等重点措置の対象となり、集中対策期間が2月20日まで延長されたことから、やむを得ず開催日を3月13日(日)に延期することを決定した。

開催概要は図7の通りであるが、後援として周南市、下松市、山口県体育協会、周南市体育協会、協力として防府市、レノファ山口、山口ペイトリオッツ、ACT SAIKYO、ミネルバ宇部、山口県アスレティックトレーナー協議会、といった多くの行政、団体が加わり、フォーラム開催の周知や参加者に配布するノベルティグッズの提供などを受けた。また、当日会場のスクリーンに投影するCM広告を募集し、山口県歯科医師会、(株)トクヤマから協賛を受けた。さらに、各登壇者の講演要旨等を記載したプログラム(別添を参照)に広告協賛を募集し、(株)ミズノ、トヨタカローラ山口(株)、竹井機器工業(株)、山口県東部ヤクルト販売(株)、自律神経専門整体GREEN、山口銀行(株)から協賛を受けた。

**徳山大学**

ライブ配信とのハイブリッド開催

**地域共創 スポーツフォーラム**

入場・参加 **無料**

事前に申込みが必須です

スポーツを通じた豊かなまちづくりを目指して、徳山大学の取り組みと、これからの大学や地域におけるスポーツの在り方について、市民の皆さんと一緒に考えます。

**日時 2022 3.13日**

**場所 周南市文化会館 大ホール**

**参加記念品**をご準備してお待ちしております!

**タイムテーブル**

- 12:30 開場
- 13:00 オープニング
- 13:15 基調講演「スポーツと地域社会」講演者：大河 正明
- 14:30 パネルディスカッション「スポーツで描くこれからのまちづくりと大学への期待」
- 16:30 クロージング

**講演者**

**大河 正明**  
徳山大学 学長  
1981年に京都大学法学部卒業後、三菱旅行(現三井UFJ旅行)に入社。2010年に公益社団法人日本プロサッカーリーグ(リーグ)に入社し、管理執行部長を経て理事、常務理事を兼任。2015年から、公益社団法人日本バスケットボール協会の専務理事を務め、2015年から公益社団法人ジャパン・プロフェッショナル・バスケットボールリーグ(JPBL)のチーフアドバイザー(理事)を務める。現在も、2020年よりびわこ徳山スポーツ大学の理事長とスポーツ・イノベーション研究部の部長を務め、2021年よりびわこ徳山スポーツ大学学長を務める。

**パネリスト**

**今井 亮介**  
株式会社ワグナー・イース代表取締役

**小本 曾 航平**  
広島大学 大学院人間社会科学研究科 准教授

**高岡 敦史**  
岡山大学 教育科学研究科 准教授

**辻 正 太**  
(株)広島がキャンパス 代表取締役

**中嶋 健**  
徳山大学 経済学 教授

**小野 高志**  
徳山大学 新着学長 兼務

**お問い合わせ**

徳山大学(担当:松永)  
Tel:0834-28-5302  
Mail:tokuyama.sports@gmail.com

主催/徳山大学 後援/周南市、下松市、山口県体育協会、周南市体育協会  
協力/防府市、レノファ山口、山口ペイトリオッツ、ACT SAIKYO、ミネルバ宇部、山口県アスレティックトレーナー協議会

**講演者のご紹介**

**大河 正明** (63歳・京都府出身)  
1981年に京都大学法学部卒業後、三菱旅行(現三井UFJ旅行)に入社。2010年に公益社団法人日本プロサッカーリーグ(リーグ)に入社し、管理執行部長を経て理事、常務理事を兼任。2015年から、公益社団法人日本バスケットボール協会の専務理事を務め、2015年から公益社団法人ジャパン・プロフェッショナル・バスケットボールリーグ(JPBL)のチーフアドバイザー(理事)を務める。現在も、2020年よりびわこ徳山スポーツ大学の理事長とスポーツ・イノベーション研究部の部長を務め、2021年よりびわこ徳山スポーツ大学学長を務める。

**小野 高志** (42歳・新潟県出身)  
専門分野は教育、トレーニング科学、スポーツ医学、東京大学教育学部、岡山大学大学院教育学部修士課程を修了し、京都大学大学院スポーツ科学研究科博士課程を修了し、博士(スポーツ科学)を取得。現在徳山大学経済学部に専任教授、地域社会とスポーツ・健康の発展の促進を図る。

**今井 亮介** (44歳・福岡県出身)  
専攻ジャンルはスポーツ科学、スポーツ社会学、身体論。2013年、早稲田大学大学院スポーツ科学研究科修士課程を修了し、博士(スポーツ科学)を取得。2019年より、広島大学大学院人間社会科学研究科准教授を務め、学内のスポーツ分野を統括する。広島大学スポーツセンター・リアルテックパートナーシップ推進部長を務める。

**小本 曾 航平** (38歳・愛知県出身)  
専門分野はスポーツ人類学、スポーツ社会学、身体論。2013年、早稲田大学大学院スポーツ科学研究科修士課程を修了し、博士(スポーツ科学)を取得。2009年より岡山大学スポーツ健康センター准教授に就任。岡山大学大学院人間社会科学研究科准教授を務め、学内のスポーツ分野を統括する。広島大学スポーツセンター・リアルテックパートナーシップ推進部長を務める。

**高岡 敦史** (44歳・京都府出身)  
専門分野は主に、スポーツまちづくり(スポーツ振興、職域内スポーツ)に関する知能教育実践的体育科学研究法を研究し、博士(体育科学)を取得。2009年より岡山大学スポーツ健康センター准教授に就任。岡山大学大学院人間社会科学研究科准教授を務め、学内のスポーツ分野を統括する。広島大学スポーツセンター・リアルテックパートナーシップ推進部長を務める。

**辻 正 太** (39歳・奈良県出身)  
2005年に東京大学経済学部を卒業後、長年経営職として中国一興社に11年勤務。岡山大学大学院人間社会科学研究科修士課程を修了し、博士(スポーツ科学)を取得。2021年より徳山大学経済学部に専任教授、地域社会とスポーツ・健康の発展の促進を図る。

**中嶋 健** (62歳・京都府出身)  
専門分野は、体育・スポーツ・産業科学、スポーツ史学、スポーツ産業学。徳山大学大学院人間社会科学研究科修士課程を修了し、現在徳山大学経済学部に専任教授、2021年より徳山大学大学院人間社会科学研究科准教授を務める。徳山大学経済学部にて、山口県内スポーツ産業を推進している。また、2007年より、非営利組織法人ボクラン山口で理事長を務める。

**徳山大学のスポーツ振興における取り組み**

**しゅうなんスポーツフェスタ in 徳山大学**  
2日間で約1000名の来場者にお越しいただきました。ゲストには、多くのプロ選手をお迎えしました。運営には、徳山大学の学生が関わっています。

**アスリートサポートセンター**  
山口大学周南記念病院、山口県産科医療センター、山口県アスレティックトレーナー協議会などと連携し、スポーツに取り組み学生のサポートを実施しています。今後は、地域の皆様にもご利用いただけるよう準備してまいります。

図7.「徳山大学地域共創スポーツフォーラム」案内チラシ

基調講演として、びわこ成蹊スポーツ大学・学長の大河正明氏から「スポーツと地域社会」というテーマで1時間の講演を頂いた。また、パネルディスカッションでは大河氏に加えて、トップアスリートとして元競泳日本代表で現在は(株)ワンダーイヤーズで代表取締役を務める今井亮介氏、広島大学准教授でスポーツセンター・アスレチックデパートメント部門長を務める小木曾航平氏、岡山大学大学院教育学研究科准教授で合同会社 SPORTS DRIVE 代表社員を務める高岡敦史氏、(株)まちなかキャンパス代表取締役の辻正太氏、徳山大学経済学部准教授の中嶋健氏の計6名をパネリストに迎え、徳山大学経済学部准教授の小野高志氏がファシリテーターとなり、「スポーツで描くこれからのまちづくりと大学への期待」というテーマで2時間のディスカッションを行った。

当日は会場での対面開催を基本とし、同時にオンライン配信も行ったが、開催時期の延期によって市民向けの案内の周知期間が直前かつ短かったことが影響し、参加者数が申込ベースで100名程と少なかったことは非常に残念な結果となった。参加者に実施したアンケート結果(別添参照)を見ても、参加した市民からは概ね参加して「良かった」との感想が得られ、参加者自身から「もっと多くの人に参加してもらえると良かった」との声が聞かれた。大学関係者、後援・協賛・協力の各団体・企業の中からも聴講する人は少なく、大学が持つスポーツ資源やスポーツ振興の取り組みがまちづくりにどのように活用でき、発展に繋がるのかという認識がまだまだ浸透していないという現実を再認識した。しかし、今回のフォーラム開催が本事業の趣旨である「大学のスポーツ資源を活用した地域活性化拠点形成」に繋がるきっかけ作りになったことは間違いなく、今後大学が地域共創を進めるステークホルダーの1つとして認識され、新たな繋がりを生む方向に発展していくことが期待された。



### Ⅲ. 今後の事業展開

上記Ⅱ. の各項目について、今後の計画は以下のように予定している。

#### ◆ Ⅱ-1. スポーツ分野の統括について

現在、事業を担っている地域共創センター・スポーツ振興部門が、地域共創センターの附属機関として大学と地域とをスポーツの分野で繋げる組織としての色が強く、当初の事業趣旨・計画であった「学内の各スポーツ関連部局（各学部、総務課、学生支援課、各運動部、等）に分かれて行われていた運動部の統括や学生アスリートの管理、スポーツ施設の運営管理、スポーツを通じた大学ブランド力の向上などの業務を統合し、学外との地域共創事業運営と併せて一体的に統括する組織・運営体制」となるまでには至っていないのが現状である。

本学は来年度4月に「周南公立大学」として公立化されることが決定し、「地域に輝く大学」を目指して改革を進めることを標榜している。また、2024年度には「人間健康科学部スポーツ健康科学科」の設置も構想しており、スポーツを通して地域を活性化する人材の育成とシンクタンクとしての役割を担っていくため、大学が持つスポーツ資源を統括し、積極的に地域に還元し、地域と共に豊かなまちづくりを展開していく姿勢や力を発信していく必要がある。そのため、大学のスポーツ関連業務をより包括的かつ一体的に担う「スポーツ振興センター（仮）」のような組織へと昇華させる必要があり、今後も検討を進めていく。遅くとも2024年度の「人間健康科学部スポーツ健康科学科」の設置までには統合された組織を確立することを目指したい。

また、公立化に伴って学内の組織体制の改革・整備が進められているが、これまで学長直轄の組織であった文化体育会連合会が解体され、学生の自治組織である学生会執行部の下に体育会・文化会等が配置される形となった。地域共創センター・スポーツ振興部門としては主に体育会と協働して大学のブランディングやスポーツ振興事業を進め、2022年度からはUNIVASに加盟し、大学のスポーツ資源の活用により一層取り組んでいく予定である。

本事業の最終的な目標の1つである収益化・自走化については、スポーツフォーラムで導入したイベント開催時の広告協賛収入のような形が1つの選択肢になると考える。しかしながら、単発のイベント開催だけでは十分な収益はあげられないことは明白であり、アスリートサポートセンターやスポーツ&アカデミックカレッジを市民にも利用可能な体制を整え、これらの事業の趣旨に賛同する企業や団体等とパートナーシップ協定を締結するなどして継続的な協力関係を築くことが必要である。今年度実施した事業では学生が運営側に参画し、市民と直接触れ合うことで大学生の若い力が地域に活力を与えるものとして認識され、期待が高まっている。学生たちにとっても地域の中に入って行って地域に存在する課題解決に当事者として参画することが実践的な学びとなり、スポーツを「する」立場としてだけでなく、「支える」立場として卒業後の進路開拓にも繋がっていくと期待される。学生自身が文武両道かつ地域住民から期待される存在として自己肯定感を高めるとともに、地域住民が学生や大学をまちの誇りとして認知することにより、双方の相乗効果によってスポーツ振興事業がさらに発展していくことが期待される。少しずつでも着実にそういった共創関係を構築していきたいと考える。



## ◆ II-2. 大学スポーツ・アドミニストレーター(SA)の配置について

今年度、本事業を進める中で、SA の役割が大学や地域にとって重要であることは学内外の誰もが認めるところとなっている。

2022 年度 4 月以降は専任教育職員（経済学部ビジネス戦略学科スポーツマネジメントコース准教授）が SA を兼務する形で継続的に SA を配置することとなった。本学は教育の特色の 1 つとして 2 年次に「地域ゼミ」を必修とし、地域に存在する課題を見つけ、学生が市民とともに解決するという取り組みを行っている。大学のスポーツ資源を取りまとめて地域に還元しながら、研究マインドを持って情報を収集し知見を発信していくという意味では、SA の役割を担うポストとして教育職員が SA を兼務するという形が最も適していると考えられる。

## ◆ II-3. 大学のスポーツ資源を活用したコンソーシアムの形成および地域活性化に向けた具体的取組

### (1) 「アスリートサポートセンター」について

今年度はセンターの存在そのものがこれまでになかったものであったため、利用するメリットが学内において十分に理解、浸透するまでに時間を要した。しかし、センターを継続的に利用していた団体（女子サッカー部やレスリング部など）はいずれも全国大会に出場して好成績を収め、確実にセンターの取り組みが成果を挙げたと考える。学内においてセンターを利用する意義を引き続き周知していくとともに、この 2・3 月のオフシーズン期間には各団体に呼びかけて集団でのメディカルチェックを実施した。メディカルチェックで各個人の身体的・体力的な基礎データが明らかとなり、選手や指導者が認識していなかった問題等を明確にできれば、センターの利用に繋がる。また、シーズン中に傷害等の問題が発生した場合でも、基礎データがあれば速やかに対応することが可能となる。さらに、得られたデータを基に疫学的な知見として発信することも可能となる。

また、当初の事業計画の通り、センターの利用は学内者のみではなく学外の一般市民にも可能な体制に整えていくことを目指しており、現在は平日夕方のみ開室となっているが、今後は日中や週末にも開室できるような体制を確立できるように検討を進めていく。そのため、引き続き山口県体育協会や周南市体育協会、山口大学医学部整形外科や山口県アスレティックトレーナー協議会などと連携・協議を重ねていく計画である。

### (2) 地域部活動推進について

周南市教育委員会と連携し、令和 5 年度以降の学校部活動の地域移行を目指し、実証研究の取り組みを段階的に進めていく。事業計画に示した「徳山大学スポーツアカデミー」や「松下村塾 NEO」のプランを統合し、「周南公立大学スポーツ&アカデミックカレッジ」として組織することを検討している。具体的には、週末の土曜日の日中に大学のスポーツ施設を活用して世代や競技種目、障がいの有無にとらわれず様々なスポーツや遊びなどを行う場を開設し、同時に様々な教養を身に付けられるような機会を提供したいと考えている（例として、英語でサッカー教室、等）。

### (3) しゅうなんスポーツフェスタについて

本事業のキックオフイベントとして開催した同フェスタは、学内のスポーツ資源をフル活用し、多くの学生および教職員が運営スタッフとして関わっただけでなく、多くの地域住民や周辺企業、行政、団体

が参加して地域を活性化するきっかけ作りとなった。残念ながら新型コロナウイルス感染症の影響によって周南市との共催は実現できなかったが、来年度は周南公立大学として初年度を迎えることもあり、ぜひ共催としたいとの要望もすでに受けており、実現したいと考えている。

#### (4) 地域共創フォーラムについて

スポーツを通じた地域振興を進めていくため、地域に内在する課題を市民とともに見つめ、解決の方策を検討する機会として、県外、中央からもゲストを招聘して知見を教授して頂くとともに、本学や周南地域、山口県を客観的に評価して頂くフォーラムやセミナー、シンポジウム等を今後も継続的に開催していく。

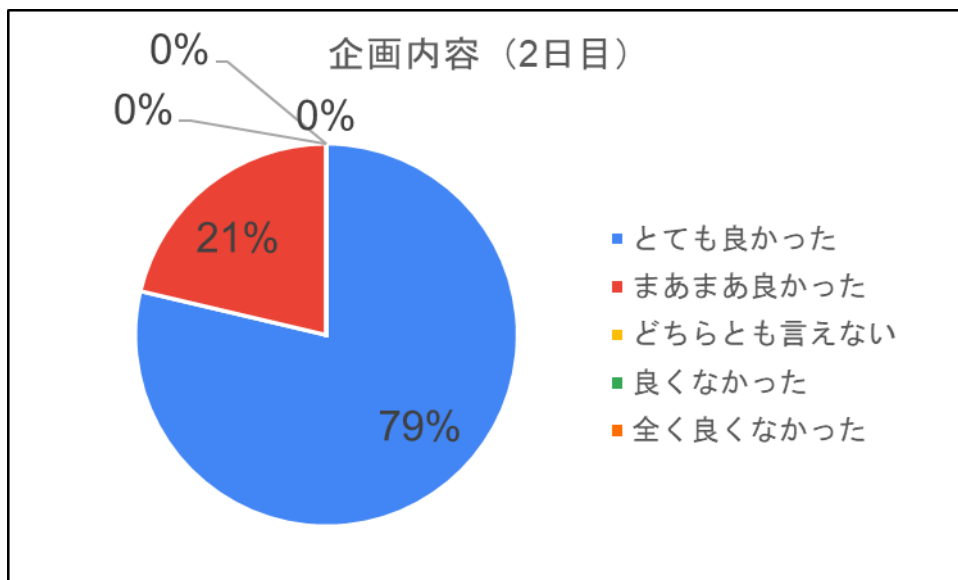
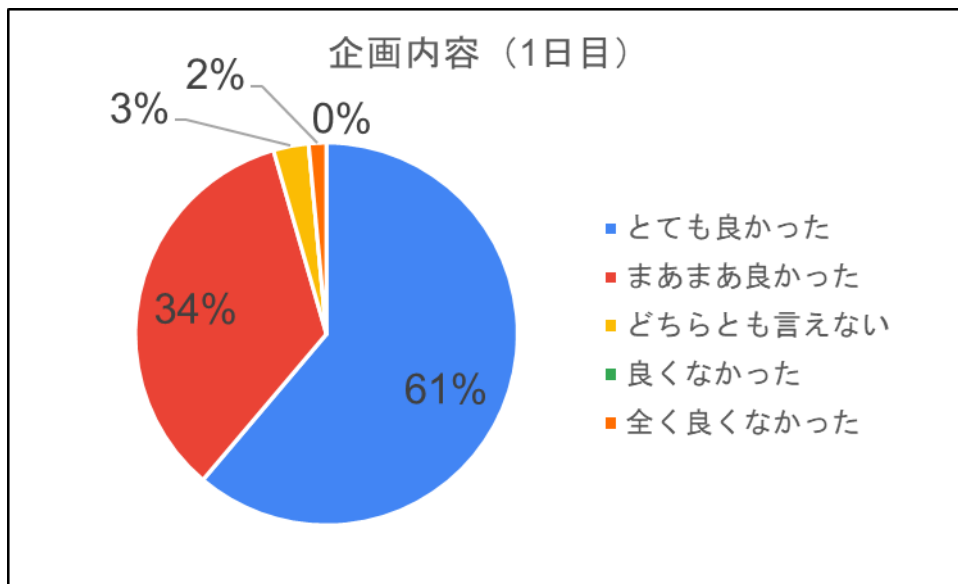
これらの事業を継続的に展開し発展させていくためには、本学が知の拠点としての価値を最大化し、周南市や広域圏の各行政、山口県、今年度実施した各事業において協力関係を築いた各企業や団体等に対し、スポーツを通じた地域振興を一体となって共創していく取り組みの趣旨を伝え、賛同を得ていく必要がある。地方の小規模公立大学だからこそその「地域密着型」の特性を活かし、新たな価値観を発信できるカッティングエッジとして「地域に輝く大学」となれるよう、今後も積極的な取り組みを進めていく。

# 「しゅうなんスポーツフェスタ in 徳山大学」参加者アンケート集計結果

## 【実施概要】

	配布数	回答数	回収率(%)
1日目(10月30日(土))	101	67	66.3
2日目(10月31日(日))	214	122	57.0

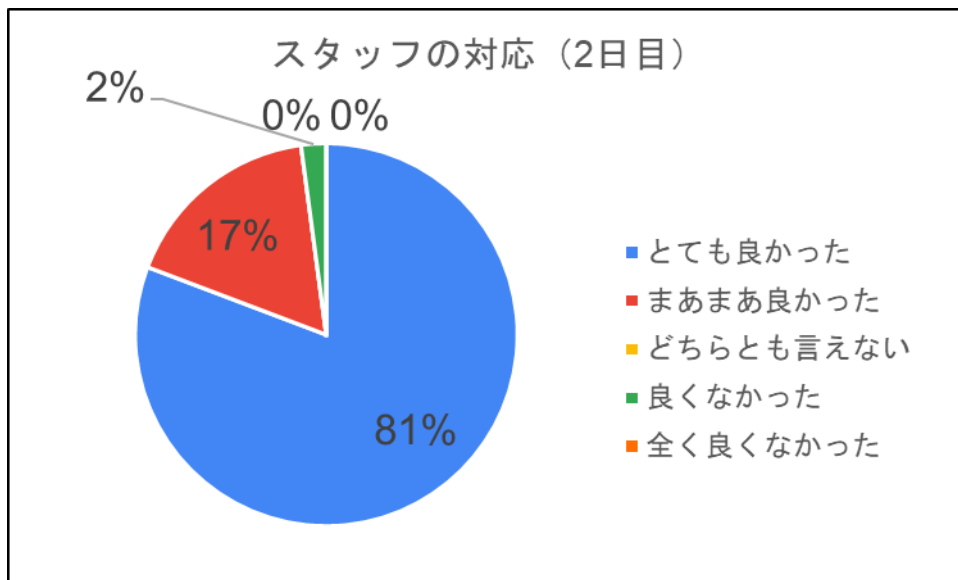
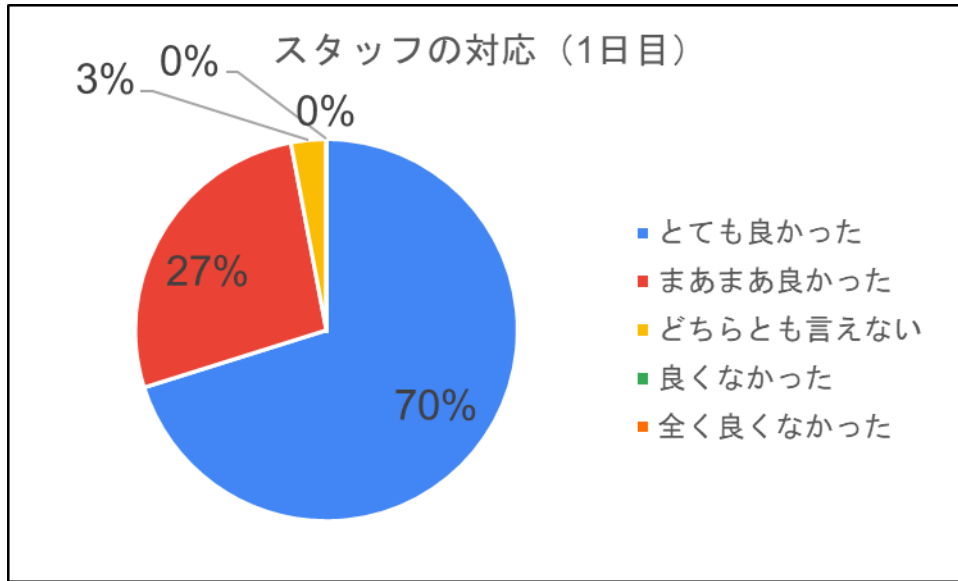
## 【1-1】フェスタの企画内容に対する感想として、最も当てはまるものは次のうちのどれですか？



両日ともに「とても良かった」・「まあまあ良かった」と肯定的に評価する意見が95%以上を占めていた。



【2】 スタッフの対応に対する感想として、最も当てはまるものは次のうちのどれですか？



両日ともに「とても良かった」「まあまあ良かった」と肯定的に評価する意見が 97%以上を占めていた。

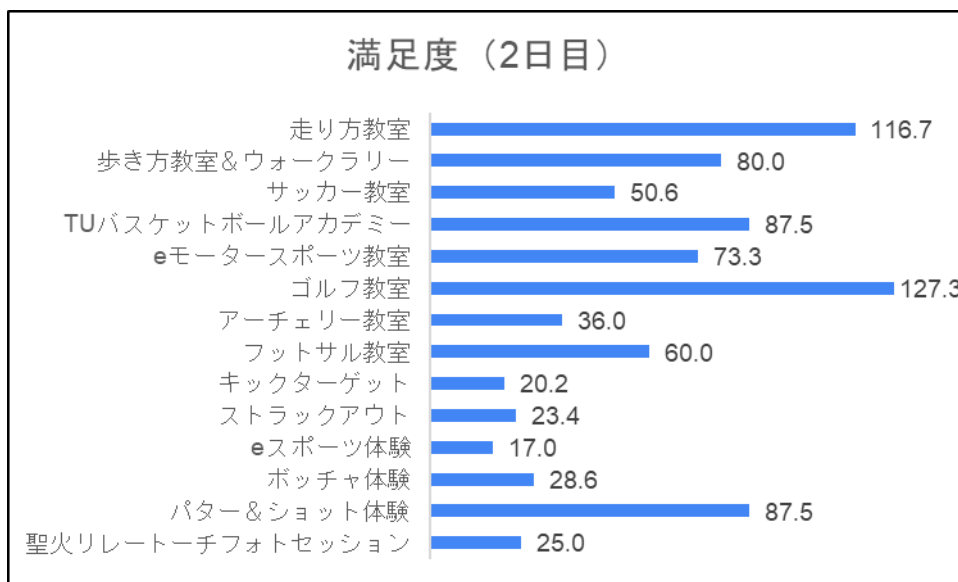
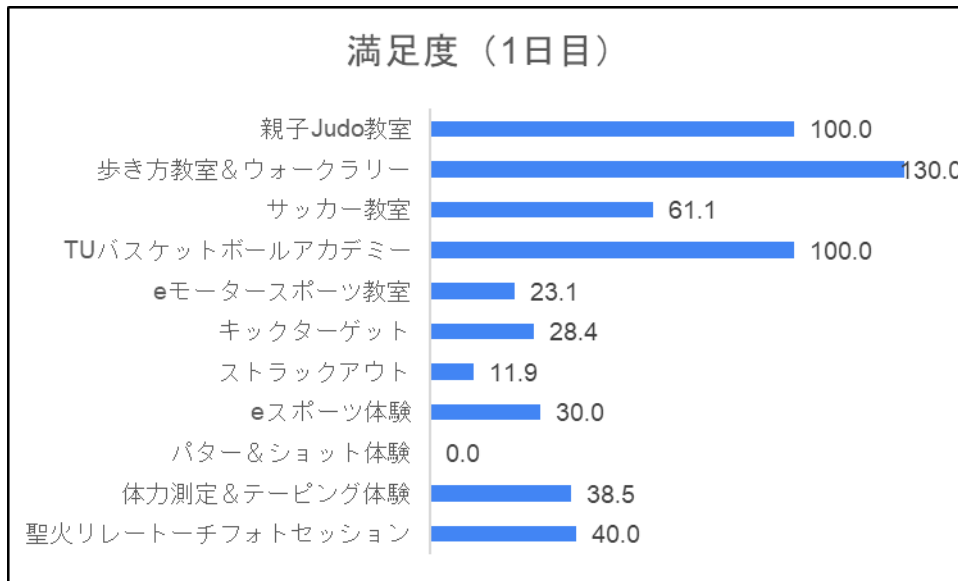


レノファ山口 FC レディースと本学サッカー部によるサッカー教室



(株)トクヤマと本学ゲーム同好会による e スポーツ体験教室

【3】今回ご参加頂いた企画の中で、「参加して良かった」と感じたものはどれですか？（複数選択可）



✓ 各企画に参加した家族数に対するアンケートでの選択数の割合を「満足度」として算出した。



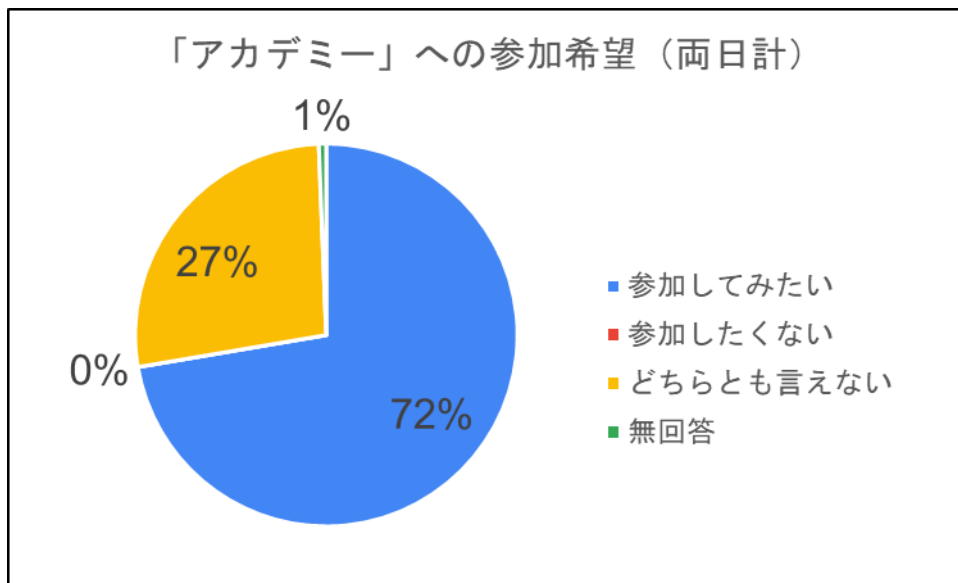
トヨタカローラ山口と本学ゴルフ部によるゴルフ教室



田布施農工高校と本学アーチェリー部によるアーチェリー体験



【5-1】徳山大学では、地域におけるスポーツ振興と学力向上（生涯学習）を図っていくため、子どもから大人まで、障がいの有無に関わらず、誰もが運動能力と教養を身に付けられる場として「徳山大学スポーツアカデミー(仮)」の設立を検討しています（11月以降、毎週土曜日を予定）。そのような環境があったら参加してみたいですか？



山口県体育協会と本学陸上競技部による走り方教室



周南市体育協会と本学軟式野球部によるストラックアウト体験



山口県アスレティックトレーナー協議会による体力測定

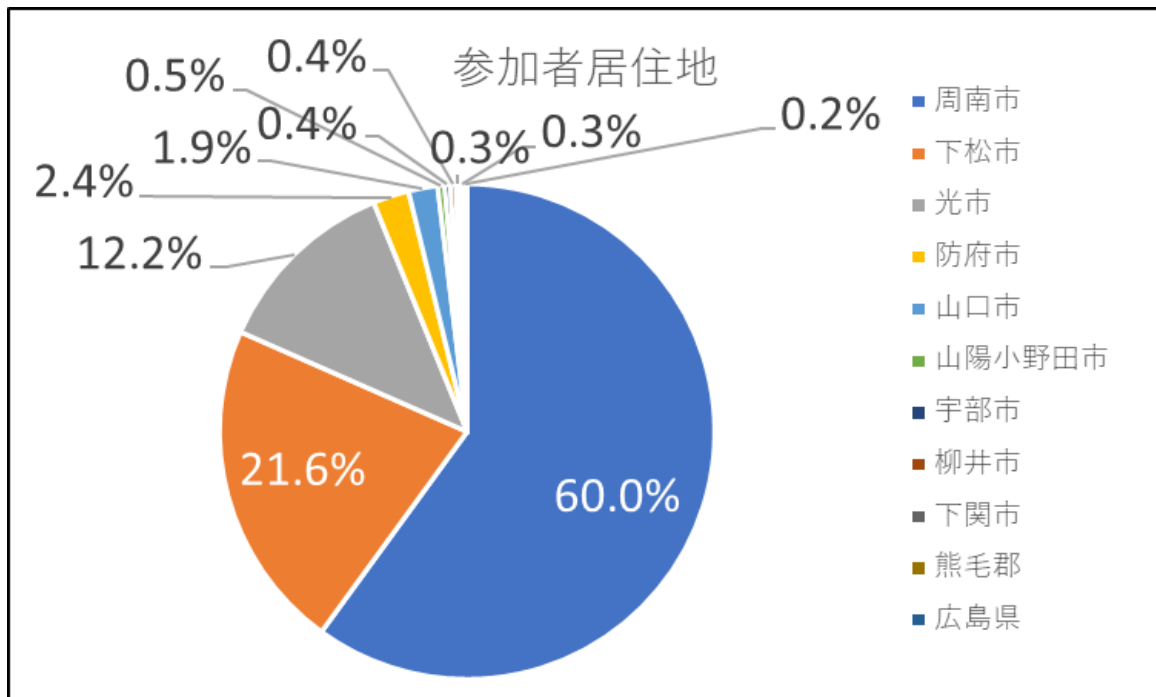


ミネルバ宇宙部と本学サッカー部によるフットサル教室

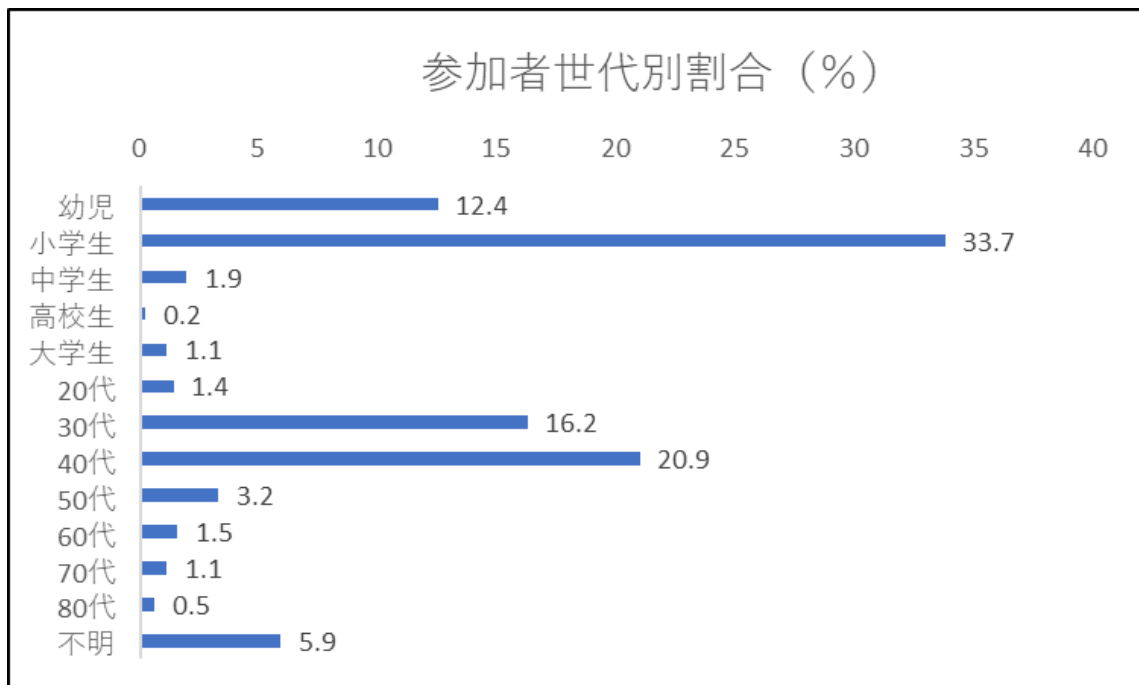


### 【参考】

申込・受付のデータから、参加者の居住地および世代別の割合を算出した。



周南広域圏（周南・下松・光）からの参加が9割以上を占めた。これは周知範囲と関係しているものと考えられる。一方で、積極的な周知を行っていない地域からの参加も見られた。



多くの企画の対象が小学生であったため、割合として最も多かった。また、その付き添いの保護者（30～40代）と兄弟（幼児）を含め、家族連れで来場するケースが多かった。

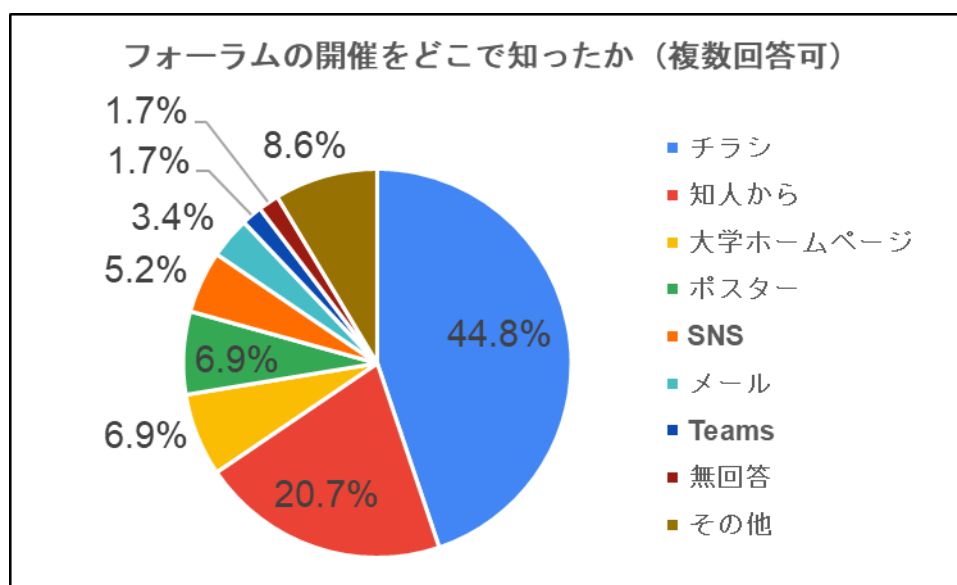
一方で、中高生の割合が非常に低く、特に高校生を対象とするような企画を今後検討していく必要があると考えられた。

# 「徳山大学地域共創スポーツフォーラム」参加者アンケート集計結果

## 【実施概要】

	申込数	回答数	回収率(%)
会場配布	66	45	68.2
オンライン	38	8	21.1
総計	104	53	51.0

## 【1】本フォーラムの開催をどこでお知りになりましたか？（複数回答可）



### <実際に情報を得た配布・掲示場所の詳細>

- ◆ チラシ：周南市役所、周南市広報、周南市文化会館、麒麟ビバレッジ周南総合スポーツセンター、下松市回覧、光市、職場、大学、中学校、ほっぷ
- ◆ ポスター：周南市文化会館、下松スポーツ公園体育館、大学
- ◆ その他：大学関係者、高校の先生から、職場

## 【2】本フォーラムに参加された理由をお聞かせください。

- ・スポーツと地域、地域と大学の関わりについての色々な意見を聞いてみたかった。
- ・スポーツと地域の関わりについて興味があるから。
- ・スポーツと地域との関わりに興味があったから。
- ・スポーツを通じた地域づくりに関心があったため。
- ・スポーツによる地域づくりに興味がある。
- ・スポーツを通じた地域づくり、人づくりに興味があった。
- ・スポーツによる地域貢献について知りたかったから。
- ・スポーツによる地域貢献について知りたかったから。地域振興に興味があったため。
- ・地域スポーツの振興のためにどうすればよいか学ぶため。
- ・地域スポーツに関心があった。

- ・スポーツで地域を盛り上げるとい趣旨に興味があったため。
- ・スポーツに関心があり、スポーツによる地域振興の可能性を専門家から聞きたい。
- ・地域の活性化のためにスポーツをどのように関わらせれば良いのかについて興味をもっており、そのヒントを得るため。
- ・スポーツの価値の見直しで参加。
- ・スポーツの力にはどのようなものがあるのかを学べると思ったから。
- ・まちづくりにスポーツを活用したいから。
- ・過疎化地域とスポーツの関係。
- ・スポーツを介護予防に役立てる方法を知りたいと思い参加。
- ・部活動の地域移行に興味があったから。
- ・コミュニティスクールがスポーツによるまちづくりにおけるスポーツインフラになり得るのか、その場所への大学の具体的支援は何か？を知りたかった。
- ・自分が所属する NPO 法人と徳山大学の交流がある中で、時機を得たフォーラムの開催に興味を持った！バスケット大好き。
- ・地域共創に企業として取り組んでいたから。
- ・徳山・下松・光においてのスポーツに対する意識がどんなものか確認するため。
- ・公立化となり、これから周南市との関わりがどのように変わっていくかを詳しく知りたかった。
- ・スポーツによってより一層徳山大学の魅力が増し、地域の小中高生に刺激を与えてほしいと思っています。最終的にはここ周南市を活性化してくれることを望みます。スポーツで市民をスカッとさせてください。
- ・地域における大学の位置づけ、役割を学びたかったこと。新たに公立大学になる大学としてどのような考え方をしているのを知りたかった。
- ・周南公立大学がスポーツを通じて地域に活力を与えてほしいと思った。地域の成長エンジンになることを期待している。地域に輝く大学になってほしい。
- ・スポーツに興味があったから。周南公立大学に興味があるから。
- ・周南公立大学の取り組みに興味があったから。
- ・新しい大学に興味があったから。
- ・スポーツに興味があつて。
- ・大河さんの話を伺いたいと思ったから。
- ・話を聴きたかったから。
- ・知人からの紹介で興味を持ったため。
- ・活動に興味があった。
- ・興味があったから。(5)
- ・入場参加無料。
- ・プレゼント付きだったので。
- ・e-sports (2)
- ・大学行事だから。

**【3】第1部 基調講演「スポーツと地域社会」に関して、ご意見やご感想、演者への質問等をご自由にお聞かせください。**

- ・活動実績がわかりやすく説明されていた。
- ・実践されてきた方のお話は大変参考になった。
- ・直接のアイデアや考えなどを聞いて良かった。
- ・貴重な体験からスポーツと地域社会の連携に大変興味を持った。
- ・Jリーグや Bリーグと地域づくりの関係性、理念がよく分かった。
- ・Bリーグと Jリーグの役割がよく分かりました。とても勉強になりました。

- ・プロスポーツの変遷、とても興味深かったです。プロスポーツチーム、周南市に欲しいですね。
- ・周南市にプロスポーツ団体がいないので、あればいろいろな交流ができると思います。
- ・海外の事例も豊富に紹介して下さり、現在の日本のスポーツ、地域などの状況がとてもよく分かった。
- ・ドイツ型のスポーツとの関わり方がとても良いと思った。
- ・日本の各プロスポーツの違い、外国のプロスポーツの成り立ち等、大変分かりやすく、それを通して大学が地域においてスポーツを活用して何を成していくべきか考える参考になりました。
- ・とても興味深いためになる話をありがとうございました。中でもヨーロッパのサッカーが地域に強く根付いている理由が「地域の強いチームが集まってプロのリーグになったから」ということを初めて知り、日本とは違ったサポーターの熱の謎を明らかにすることができました。そこで 1 つご質問なのですが、大学の課外活動（部活動）でもこのような熱を生み出すことは可能なのでしょうか？また、それには何が必要とされるのでしょうか？
- ・地域密着型のスポーツ活動は理想的だと思います。少子高齢社会で過疎化が進む中で、地方に子どもをどう集めるのか、指導者をどうするのか、拠点の維持・運営をどうするのか課題も多い問題だと感じました。人、金をどう動かすのか、うまくいく方法があるといいと思った。
- ・プロスポーツの地域への影響の大きさが分かりました。これから先、各種目においてプロが立ち上がってくるであろうことや、いかに地域密着でやっていくかということが重要になってくるように感じました。周南という地域においていかに地域と関わるかが大切だと知りました。
- ・地域にスタジアムやプロチームがあることによる地域への影響(収益の一部が市債償還に使われる、防災拠点になる、市民の誇り)について知ることができた。
- ・スポーツの運営、成功には経済的な側面や地域貢献が含まれることが意外だった。
- ・スポーツと地域社会に関する取り組みが聞けて良かったと思う。
- ・地域スポーツに何が求められているのかを考えるきっかけになった。
- ・企業とクラブの関係性について、クラブは金銭的援助、協力を求められますが、それだけでは企業の財力によって途絶えることもあります。それ以外の関係性、どのような関係を作ることが地域のためになりますか？
- ・大学生が部活の指導にあたるという話が興味深かったです。生徒指導、保護者対応、安全管理面といろいろな課題はありますが、良いと思いました。
- ・部活動の指導に派遣された学生の競技種目を聞きたかった。
- ・幼児期への取り組み事例は非常に参考になりました。
- ・大学スポーツ、もう少し聞きたかったです。大変良かったです。
- ・大学がスポーツを通じる行事を企画運営し、子どもから大人までを楽しませてくれるようなイベントがあるといいと思う。
- ・部活動の地域移行と大学について、部活を担当している教師の負担が大きいと聞いている。私の身内にも土日の負担が一番大きく、30 連勤以上がよくあるのが実態という。学生アルバイトの活用が進んでほしいと考える。ただし、財政が大丈夫？
- ・中学校部活動は金・人では解決することはないと再考した。
- ・大変貴重な話をありがとうございました。キッズプログラムや野外スポーツプログラム、チーム力向上プログラムを継続的に実施するために大切なことは何でしょうか？
- ・自分自身も地域スポーツを通して、今大学生もそのスポーツを続けられている。「やらされる」ではなく「やりたい！」と思えるような地域スポーツのおかげで今がある。そんなスポーツのできる場所を子どもから大人までの地域スポーツについて貢献できることを少しずつ探っていきたい。
- ・大学生が中学校に指導者として派遣された場合のパワハラやセクハラなどのハラスメント問題も指導法などに盛り込んで育成していくのか？大学施設を市民の方に有料（低額）・無料で開放した場合に近くの同様の民間施設とのトラブルはないのか？  
(民業圧迫)
- ・ミニバスケット（櫛ヶ浜、久米）。みなさん良くてくださいます（母集団）。(バスケットの) コーチも良くてくださいます。
- ・地域のスポーツ教室（一般の初心者が体験できる教室）の開催。



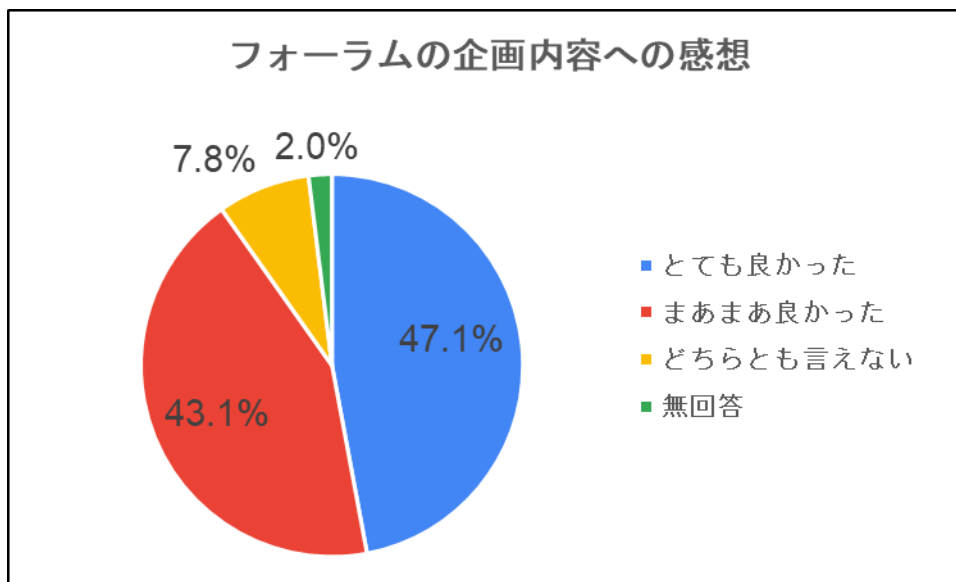
- ・質問コーナーでシニアのことを話されていたのが参考になった。
- ・各スポーツが経済と繋がっていることを知れた。シニア層のスポーツ参加も大切という言葉に感銘を受けた。
- ・興味深い内容だった。
- ・とても参考になるお話しでした。
- ・途中入場したので聴けていない。

#### 【4】第2部 パネルディスカッション「スポーツで描くこれからのまちづくりと大学への期待」に関して、ご意見やご感想、演者への質問等をご自由にお聞かせください。

- ・スポーツ・まちづくりには、人と人との繋がりとというのが大切だということが分かりました。学生がいかにまちづくりに関わっていくかということや、人々を巻き込めるかが、周南を盛り上げていくのに必要なことだと感じました。
- ・共通のテーマについて、様々な分野からの知見を聴けて良かったです。民間と大学の協力関係の課題も考えさせられる有益なディスカッションだったと思います。
- ・いろいろな視点から学ばせて頂きました。大学、行政、企業、スポーツ協会など連携して地域スポーツの活性化に繋がることを期待致します。質問としては、周南公立大学さんはスポーツの中でも何の κατηγοリーを強みとしたいとお考えでしょうか？（強みがあった方が良いかと思いました）
- ・大学が持つ専門性や学生の力や設備などの資源と地域との結びつきを作っていくと、地域が抱える課題解決の実例を伺えて可能性を感じることができました。
- ・担い手をどのようにつくるのか知りたかったが、大変参考になる話であった。
- ・地域貢献と言葉で言うのは簡単だが実行していく事は難しい。若い力と発想力に期待したい。
- ・スポーツを核にしてまちの交流人口を増やすプラットフォームが大学であって欲しいと思います。
- ・地域の方はもちろん、地域外の方でも大学と関わりをもっと深くまでできるように、長期（週1）の練習会など地域以上の繋がりも深く長く続けられる活動をしていきたい。
- ・地域貢献のあり方（ともに学ぶということ）。
- ・ディスカッションは面白かった。もっと掛け合いを見たかった。
- ・スポーツによるまちづくりについていろいろ考えるきっかけとなった。スッキリ帰れないことが良いことだと思います。
- ・答えのないことに対して、その地域の背景の中でどう考えていくか、非常に難しい課題であると思います。
- ・いろんな事例があること、周南公立大学の目指すものが分かった。
- ・他県、他大学の取り組みを知れた。
- ・各大学、立場からスポーツ事業に取り組まれている先生方の事例紹介はこれまで知らなかったこと、発見があって面白かった。
- ・私用で前半しか参加できませんでしたが、色んな方のそれぞれの取り組みを知ることができ、ためになりました。それを知った上でパネルディスカッション、とても聴きたかったです！！
- ・高岡先生の「求心力と遠心力の循環」というお話しが、おもしろかったです。地域貢献というと、地域の魅力を外に発信して地域活性化を図るとか関係人口を増やすという「遠心力」の方しかイメージになかったのですが、その地域に住む人たちの幸福度を高めるという方向性のお話を今回たくさん聞くことができ、地域貢献へのとっつきにくさが少し減りました。
- ・高岡先生、辻さん、小木曾先生の話が良かった。タイトルと合致していたし、とても参考になる話を聴けた。パネリストが多いように感じた。周南公立大学に関する話はパネルディスカッション前の別枠で良かったのでは？（一貫性が感じられなかった）パネルディスカッションとして行う前に、1人10分で個々の事業紹介の枠をとってもらった方が、話す人も聴く人も話しやすく聴きやすかったのでは？（大河さんは1時間以上ステージで座っているだけだったので、控室でお休み頂いていた方が良かったと思った）
- ・高岡先生のお話は最高に良かったです。
- ・貴重な話が聞けて良かった。
- ・大学から小中高に指導に行くのは良いことだと思います。
- ・具体的な事例、成功事例、失敗事例を聞きたかった。

- ・貴重な専門家の方々のお話を聞きたくて参加したが、ディスカッションの時間が少なくて残念。
- ・事例報告は参考になったが、ディスカッションになっていない。個人的見解の披露のみ。ストーリーがあいまいで準備不足である。
- ・自己紹介が長すぎ。
- ・好きなこと言ってすみません。
- ・都合で受講できず。

**【5-1】フォーラムの企画内容に対する感想として、最も当てはまるものは次のうちのどれですか？**

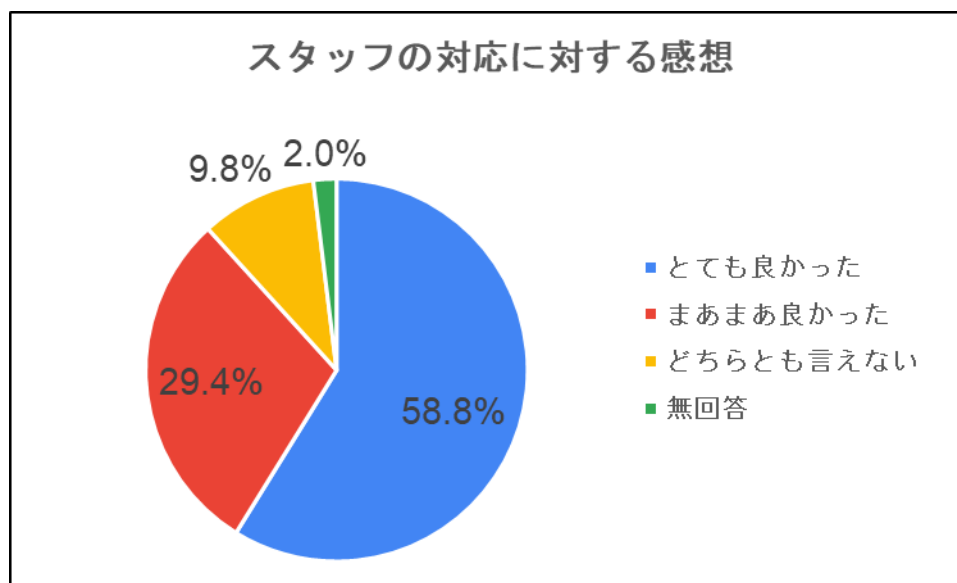


**【5-2】上記 5-1 でお答え頂いた内容について、具体的にご意見等がございましたらお聞かせください。**

- ・地域貢献活動について少しポジティブに考えられるようになった。効果とか目新しいことをしなくてはならないといった意識を持たなくても良いのかもしれないと思った。
- ・スポーツや文化は人生を豊かにしてくれるものだと思えば改めて感じるとともに、新たな可能性について感じる事ができた。こういう考えで動いていく人が 1 人でも多く増えれば、将来的にも明るい将来像を描けると思った。
- ・スポーツが与える影響を再確認した。
- ・地域スポーツの振興に繋がる内容であったため、良いディスカッションだったと思います。
- ・パネラーの皆さんとともに考えることができ面白かった。
- ・詳しく説明してくれて分かりやすかった。
- ・1 部と 2 部で講演のスタイルが変わり、とても聴きやすかったです。
- ・徳山大学から周南公立大学に移行することに伴い、積極的な事業活動をされることに期待している。
- ・よその取り組みが聞けたこと。
- ・いろいろな経験してきた方々（他県・他大学）の話を聞けた。
- ・びわこ成蹊スポーツ大学の取り組みを参考に地域貢献する活動を考えてほしい。大学施設の一般開放、びわスポキッズプログラム。
- ・大河先生の講演のレジュメを資料として頂ければよかったですと思いました。
- ・内容自体は素晴らしかったです。立派な会場で来場者が少なかったことは惜しいと思いました。
- ・もっと多くの方々に参加頂ければ良かった。
- ・チラシの内容だけでは誰が何をしゃべるのか全く分からなかったけど、話を聴いてみたら様々な大学・地域での話が聴けて面白かった。もう少しチラシに掲載する内容を精査した方が良いのでは？（経歴よりも何を話すのかを載せてもらいたかった）

- ・各自の自身の活動の紹介が長過ぎました。
- ・基調講演はよかった。PD は個人的見解の披露のみで、ディスカッションになっていない。

**【6-1】 スタッフの対応に対する感想として、最も当てはまるものは次のうちのどれですか？**



**【6-2】 スタッフの対応に対する感想として、最も当てはまるものは次のうちのどれですか？**

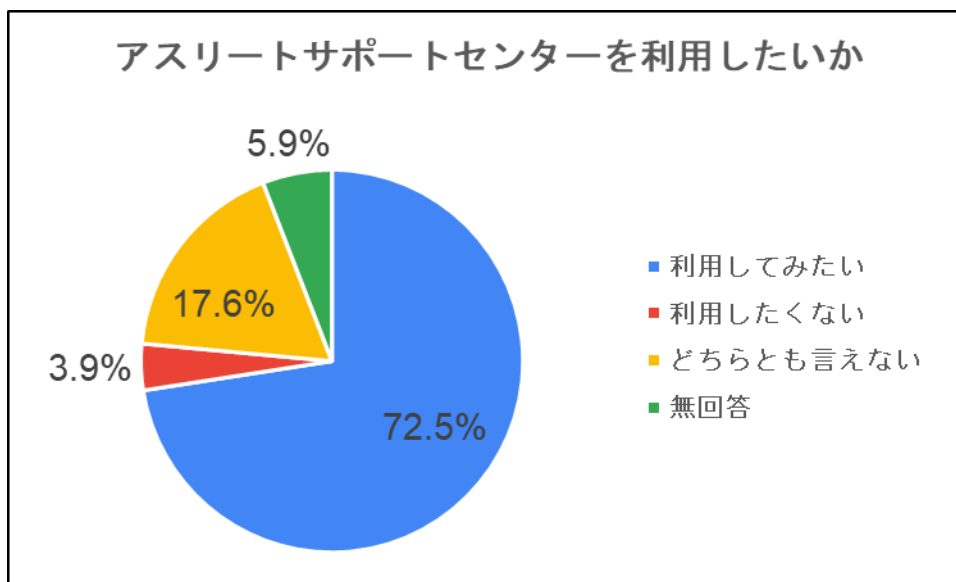
- ・学生や教職員の皆さんが礼儀正しく良かった。
- ・学生の雰囲気よかった
- ・積極的に来場者をもてなしてくれていました。また、皆さんとてもさわやかでした。
- ・礼儀正しくさわやかでした。
- ・あいさつがさわやかでした。
- ・学生さんがとても礼儀正しくてハキハキしていて良かった。
- ・ハキハキした対応で良かった。
- ・ハキハキした対応で受付から入場までスムーズだった。
- ・受付の丁寧な対応、説明。
- ・受付などで時間をとらず、スムーズに入場までできた。
- ・案内が分かりやすかったし、親切でした。
- ・行き届いた対応に恐縮！
- ・スタッフの方々の対応がテキパキしていて感じが良かった。ノベルティ袋の中にペンが入っていてアンケートがすぐ書けたし持ち運びしやすいので助かった。コーヒー配布は良かった。
- ・積極的に挨拶をしてくれてよかった。アンケートのお願いの時にボールペンが入っていることも併せてアナウンスしてくれるととっても良かった。ドリンクサービスがあったのはありがたかった。
- ・早く着いて、ロビーでの待機中にコーヒーを配ってくださる心遣いがとてもうれしかったです。どのスタッフの方も感じが良く、挨拶もさわやかでした。ありがとうございました。
- ・コーヒー配布が良かった。
- ・e-sports の体験、親切に教えて頂いた。
- ・受付～会場までは朗らかな雰囲気だったが、入り口～受付までの間が冷たい雰囲気が入りづらかった。会場内でコーヒーが飲み



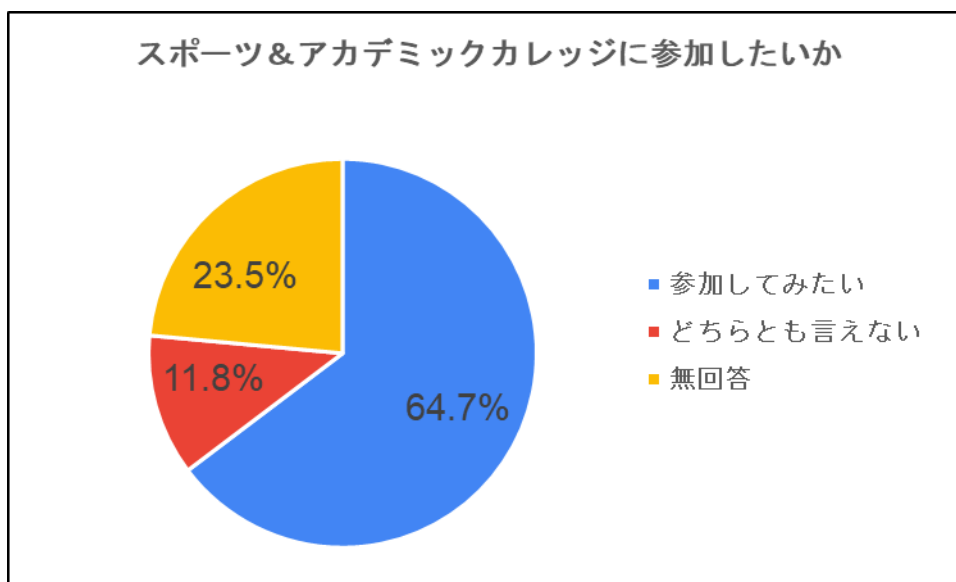
ないなら、その旨をコーヒー提供前に教えてもらいたかった。（開演まで時間がない中でコーヒーをもらったので、熱いコーヒーを急いで飲まなければならなかった）

・リモートなので対応はわからない。配布されたレジユメは簡易すぎる。オンラインの画面の文字が小さく、ぼやけて見づらい箇所が多々あった。

【7】徳山大学（周南公立大学）では、地域におけるスポーツ振興と生涯学習を図っていくため、「アスリートサポートセンター」を学外者にも利用して頂ける体制とすることを検討しています。そのような環境があったら利用してみたいですか？



【8】徳山大学（周南公立大学）では、地域におけるスポーツ振興と生涯学習を図っていくため、子どもから大人まで、障がいの有無に関わらず、誰もが運動能力と教養を身に付けられる場として「周南公立大学スポーツ&アカデミックカレッジ」の設立を検討しています。そのような環境があったら参加してみたいですか？



【9-1】上記7および8で「利用・参加してみたい」と回答頂いた方について、どのような内容を希望されますか？

- ・体力増進など体力づくり。
- ・体力を維持するため。
- ・身体能力の向上、トレーニングプログラム。

- ・健康相談や運動プログラムを紹介して頂きたい。
- ・体の使い方や負荷がどれくらいかかっているかなど。
- ・ケガ予防や運動の基礎知識
- ・健康・スポーツに関するアドバイス。施設・設備の開放。スポーツ塾みたいな子どもたちを対象とした講座・演習。
- ・学校を卒業すると仕事をしている間はまだ体を動かしてもいいが、休日は疲れて寝てばかりいる。運動習慣のない私のような者はサルコペニア状態になっていることに気付かず、体調不良が続くうちに運動もできにくい体となるだろうから、その状態から脱するための気軽に運動に取り組める場や専門的知識に基づいたプログラムを希望。
- ・チームビルディングや栄養、スポーツメンタルトレーニングなどの知識を身につけたい指導者・選手のための講座。
- ・障がいのある子どもたちにスポーツ（特にマラソン等）を通して活動の場を作りたい。そういう活動のサポートがしたい。
- ・パンフレットの例に挙がっていたような「サッカー教室×英語」などの「スポーツ×学び」はとても興味深くやってみたいです！普段は知り合えない人との出会いもありそうでワクワクします！
- ・地域に来て頂いてみんなとゲーム感覚で参加したい。以前、遠石公民館でイベントがあった時、とても楽しかった。
- ・学外者にも利用可能となれば、地域スポーツの振興に繋がると思う。プール、ジム、運動場の利用は効果があると考えます。
- ・スポーツをもっと身近に利用しやすい環境を大学に作ることで協働していける。
- ・メジャーなスポーツ＆マイナーなスポーツ。
- ・コミュニティスクールとの地域共創として取り組んでいきたい。
- ・地域スポーツクラブ的な要素。
- ・部活動指導員。スポーツによるまちづくり、コミュニティスクールの支援。
- ・多種目のスポーツができる場所。
- ・親子スポーツ教室、ボッチャ、パラリンピックの競技、子供の成長にまつわるケガの予防・対応、トレーニング方法。
- ・部員とともに色々やってみたい。
- ・夜間に参加できるコース。
- ・シニアの健康づくり教室。各世代を含んだ競技チーム。
- ・シニアでも参加できるプログラム希望します。
- ・シニアの健康増進に役立つことをして頂きたい。
- ・シニアでも利用・参加できる環境を希望する。
- ・セミナー・講演会
- ・e-sports (2)
- ・Bリーグチーム設立を考えています。協力してみたい。

**【9-2】上記 7 および 8 で「利用・参加したくない」もしくは「どちらとも言えない」と回答頂いた方について、もしよろしければその理由をお聞かせください。**

- ・アスリートサポートセンターは利用したことがあります。周南公立大学スポーツ&アカデミックカレッジについては具体的なイメージが分からないのでどちらとも言えないと回答しました。
- ・開催日程や内容による為。
- ・詳細な内容がわからない。学生が、競技練習、授業、地域連携と忙殺され、学生に大切な「考える時間」がなくなる。体制整備を希望する。
- ・実像がはっきりしない。
- ・どのような関わりができるのかを考えています。
- ・そこまでスポーツ好きではないので。

**【10】最後に、フォーラム全体を通してのご意見や感想などがあれば自由にご記入ください。**

- ・スポーツの持つ力が大きい。スポーツをしたい、応援したい市民を増やすことで地域は必ず盛り上がる。周南公立大学生の人間力にも繋がる。
- ・スポーツは元気を与える大切なツールと思っています。ぜひ大学の資源を活用できるような仕組みを作って頂き、地域全体を元気にしてもらいたい。
- ・「スポーツ×地域×大学」のテーマに対して、様々な角度からの考え方や実際の取り組み、課題等が知れてとても勉強になりました。ありがとうございました。
- ・市民とともにまちづくりの課題を考えてもらえる大学になってもらえれば。スポーツには大きな可能性があるかと改めて実感。学び合える場になってとても良かった。周南公立大学に期待したい。
- ・イベント実施に関わる運営スタッフの方々の対応がとても良いと思った。文化会館を使用されていたのはとても良かった（会場の雰囲気は集中力を上げてくれたように思う）。第2部では後半踏み込んだ楽しい話が聞けた。多様な経験を持つ多くの講演者が集ったからこそ多様な意見が出てディスカッションが深くできたのかもしれない。
- ・貴重で有意義な時間でした。ありがとうございました。正解はないことだと思いますが、地元の方とコミュニケーションをとって正しい方向に進めて欲しいと思います。
- ・皆様ありがとうございました。とてもいい勉強になりました。また、このような機会を設けて頂きたいです。
- ・こういった機会をこれからも作ってほしい。
- ・定期・不定期でもまた開催してもらえたら参加したい。
- ・また地域共創スポーツフォーラムのような素晴らしいお話が聴ける機会をたくさん作ってほしい。とてもためになった。
- ・オンラインでもよいのでフォーラム等の、地域への大学の情報発信を頻繁に行ってほしい。
- ・今回のディスカッションは答えのあることではないと思います。いろんな立場の方々の意見、アイデアがこれからのヒントになるのであろうと思いました。
- ・少人数での会議を設定して、出席者の誰もが発言できる機会を。
- ・大学の存在、活動などを地域に広く情報発信して、積極的に市民の参加を呼び掛けた方が良いと思います。
- ・長時間ではありましたが、飽きずに関心を持って聞くことができる充実した内容でした。ありがとうございました。
- ・大河様、良かったです。コーヒーの提供もあり、ありがとうございました。
- ・実技を入れたフォーラム。飲み物はペットボトルが良い。（ミネラルウォーター）
- ・もう少しディスカッション形式にしてほしかった。
- ・大学側とパネラーとの間の価値観の違いが分かって面白かったです。大学が地域に対して何か貢献できるのか、地域からのニーズが大切で、学生や大学側に矢印が向き過ぎていると感じました。
- ・せっかくの良い話を多くの方に聞いてもらえたら良かった。大学のスポーツ力をぜひ周南市に役立てて頂きたい。できれば具体的な活動を期待します。
- ・パネリスト紹介の際、ファシリテーターとの個人的な関係の話は不要。市民に向けてのプログラムなのであれば、手元に残しておきたいと思ってもらえるよう、それぞれのパネリストの発表内容にまつわる写真や事例などももう少しページ数を増やしてもらいたかった。パネルディスカッション内で徳山大学の事業紹介はいらなかったのでは？もっと1人1人のパネリストの話が聴きたかった。ファシリテーターは他の登壇者の話を回すイメージだったのですが、発表されていたので不思議な感じがしました。せっかくの機会なのに学生の参加（聴講者）が少ないように感じた。
- ・学生（スポマネ）は、学ぶ機会として参加を強く勧めても良かったように思います。
- ・参加者が少ないのが寂しく感じた。
- ・参加者が少なかったのが残念であった！自宅でのオンラインでの受講が多ければOK！
- ・課題に対する明確な回答やヒントは得にくいまま終わってしまった印象。
- ・文化会館の照明の中で資料を読む時、全体的に文字が小さく読みづらいです。高田学長のあいさつはもう少し元気に参加者を惹きつけて下さい。



【参考資料】

申込データから、参加者の居住地の割合を算出した。

